

降誕節第4主日(白)

主日礼拝

2026年1月18日 10時20分～

司式:

奏楽:

《神の招き》

前 奏 『暁きの空の美しい星よ』 ブックステプーデ
招 詞 サムエル記下22章47節
賛 美 歌 51

《神の言葉》

祈 禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖 書 エレミヤ書1章4～10節 (旧約1157頁)
マルコによる福音書1章14～20節 (新約 60頁)

子ども説教
交 読 詩 編 詩編100編1～5節 (117頁)

賛 美 歌 519
説 教 「呼ばれた者として」 八木浩史牧師

祈 禱
賛 美 歌 516

《感謝の応答》

信 仰 告 白 使徒信条
献 金
祈 禱 献金当番
主 の 祈 り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派 遣》

頌 栄 24
祝 福
報 告
後 奏

「呼ばれた者として」

『エレミヤ書』は、エレミヤが預言者としての召命を受ける場面です。前627年、ユダ王国のヨシヤ王の時代に、主の御言葉がエレミヤに告げられます。「私はまだ若く、どう語ればよいのか、分かりません」と断ろうとするエレミヤに対して、主は「『まだ若い』と言ってはならない。むしろ、私があなたを遣わす相手が誰であろうと赴いて、命じることをすべて語れ」と命じられます。預言者を通して語られるのは神御自身であるからです。エレミヤはユダ王国が神に背いてきた結果として、バビロニアによって滅亡させられることと、抵抗せずにバビロニアに従うことが神の御心であると預言します。しかし破局の向こうにある神の救済をも語ります。それは「新しい契約」と呼ばれる救いであり、時が来ればもたらされるのです。

『マルコによる福音書』は、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて、福音を信じなさい」と宣教される主イエスの救い主としての活動開始について記します。民の反応はありません。洗礼者ヨハネの宣教においては、大勢の人々が集まってきたのに…。そこで主イエスは、湖で仕事の中の二組の漁師達に声を掛けられ「私に付いて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と招かれ弟子になさいます。彼らは自分の方から近づき、弟子になったのではなく、主イエスに招かれたから応じたのです。私たちがキリスト者とされたのも、主イエスが私たちを呼ばれたからです。その選びの確かさを信じたいですね。

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像: